

日向市地域公共交通計画：計画の目標を踏まえた実施事業の進捗状況一覧（令和5年4月～令和7年3月）

計画目標	実施事業	実施工程					進捗状況	評価・次年度以降に向けた課題や取組み	備考
		R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)			
①誰もが利用しやすく、コンパクトな公共交通ネットワークの実現	【事業1】広域交通の利便性向上	①鉄道の利便性向上及び駅舎の利活用の検討	検討・協議			実施	財光寺駅周辺のアクセス環境を検討したほか、観光イベントと連携した日向市駅の利用促進を図った。	市民バスの接続のない財光寺駅にAIオンデマンドバスの接続を行い、鉄道とバスの相互利用促進を図る。	
		①路線の維持	実施				関係市町村と連携し、宮崎交通に対し運行欠損額を補助することで、路線の維持を図った。	周辺町村の人口減少が著しく進んでいるため、利用者の増加見込みは低い状況である。一方で、乗務員不足も深刻な課題となっており、雇用対策等を実施しても担い手の確保が厳しい状況である。しかしながら、利用率の低い路線の一部減便などで対応し、運行の維持を図っていく。	※H12対R5人口減少率 諸塙村38.13% 椎葉村33.59% 美郷町35.73% 日向市 7.10% (旧東郷町31.5%) 門川町 9.89%
		②イオントウン日向一道の駅とうごう間の路線の見直し	検討	実施			高校経由便の増設などを検討し、高校生の需要を調査したが、利用希望が少なく、当面は現行路線で運行することとする。		
	【事業3】市民バス（フィーダー交通）の維持・強化	①ぶらっとバス、南部ぶらっとバスの維持及びサービスの見直し	実施				利用者の減少が進むぶらっとバス（市街地路線）の運行内容の見直しを図り、AIオンデマンドバスの導入準備を行った。	対象人口の最も多い市街地エリアから、ダイヤや経路に比較的とらわれないAIオンデマンドバスの導入を図り、利便性向上を図ることで利用者の維持を図る。 人口が少なく交通需要が低い中山間地域では、住民マイカー活用のライドシェアの実証運行など、持続可能な地域公共交通の導入検討を行う。	
		②乗合バスとうごう、乗合バスなんば、乗合タクシーほそしまにおける新しい交通の導入の検討	検討・協議		順次実施		人口減少が進んでいる東郷地域の移動需要と持続可能な地域公共交通のあり方を研究し、住民マイカーを活用したライドシェアの研究を行った。		
②地域輸送資源の相互連携による汎用性の高い公共交通サービスの実現	【事業4】交通結節点の機能整備	①広域交通、地域間交通、地域内交通が接続する結節点の整備	検討・協議	順次実施			AIオンデマンドバスの導入準備にあたり、乗降場所の増加検討などを行った。	利用者が低迷する中、主要な交通結節点に対し待合室の整備など、新たなハード整備は困難であるが、待ち時間をできるだけ少なくする予約型のAIオンデマンドバスの導入を図ることで、他の交通モードとの接続利便性の向上を図っていく。	
		②接続利便性の強化	検討・協議	順次実施			接続利便性の強化を図るため、ダイヤにとらわれないAIオンデマンドバスの導入検討を行った。		
	【事業5】タクシーの利用促進及び地域輸送資源の活用法の検討	①タクシーの利用促進	実施				宮崎県タクシー協会が主体となり、免許返納者向けの割引回数券の販売を行った。		
		②スクールバス等、地域輸送資源との連携	検討・協議		実施		スクールバスの混乗は乗合バスとうごうの一部路線で実施しているが、一般利用はない状況である。	スクールバス混乗は現行の乗合バスとうごうと比べ利便性が悪く利用者もいないため、別の輸送手段の検討を図る。	
	【事業6】MaaSの推進	①MaaSに関する取り組み着手	検討・協議				標準的なバス情報フォーマット（GTFS）の研究に努め、市民バスデータの公開を行った。	スマートフォンを活用した交通情報の提供に努めるとともに、市民バスと他の交通モードとの乗継情報のデジタル化の研究を行い、デジタル社会に対応した情報発信に取り組んでいく。	
	【事業7】わかりやすい情報発信	①バスロケーションシステムの導入研究	検討・協議				バスの位置情報をスマートフォン上で分かりやすく表示するAIオンデマンドバスの市街地エリアの導入検討を行った。		
		②総合公共交通マップの作成	検討・協議	実施			市民バスの再編実施中のため、ある程度の再編見込みが完了した段階で交通マップの作成検討を行う。		

計画目標	実施事業	実施工程					進捗状況	評価・次年度以降に向けた課題や取組み	備考
		R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)			
③他のまちづくり分野との連携による魅力的な交通環境の実現	【事業8】キャッシュレス決済システムの導入検討	①商業施設等と連携した取り組みの検討	検討・協議	順次実施			A I オンデマンドバスの決済について、キャッシュレス化の検討を行った。	AIオンデマンドバスに交通系ICカードや各種電子マネーで支払うことができる決済システムを導入する。また、引き続き障がい者を対象としたタクシー料金の助成を実施する。	※障がい者等タクシー料金助成：初乗り料金助成
		①タクシー料金助成事業等の継続	実施				障がい者を対象としたタクシー料金の一部助成を実施した。		
	【事業9】福祉分野との連携	②免許返納者への特典の継続	実施				免許返納者に対し、市民バス使用料が半額となる乗車券20枚を交付した。	A I オンデマンドバスなど、新たな交通モードが運行するが、引き続き免許返納者に対する特典を継続する。	
		①来訪者（観光客やワーケーション等）の二次交通確保	検討・協議	実施			日向市駅を人気アイドルグループにちなんだ通称に期間限定で変更し、聖地巡礼など観光需要を創出した。		
	【事業10】観光と連携した交通体系の構築	②サイクリルトレインや焼酎列車等の企画列車の検討	検討・協議				日向ひょっこ夏祭りに合わせ、焼酎メーカーと連携した企画列車の運行を行った。	鉄道事業者等と連携し、観光誘導策等を引き続き検討していく。 R7.8.2: BLUEハイボール列車で行く！日向ひょっこ夏祭り日帰りツアー	
		③観光客等へ向けた周遊割引運賃の導入の検討	検討・協議	実施			A I オンデマンドバスの準備等もあったため、観光客に対する具体的な割引運賃の検討は行えなかった。		
④市民・交通事業者・行政等の協働による持続可能な仕組みの実現	【事業11】ラストワンマイル対策	①地域住民主体の取り組みの検討（地縁交通等）	検討・協議	実施			日向市社会福祉協議会が事務局を持つ移動支援センターが行う百歳体操への移動支援のほか、福祉施設車両を活用した高齢者の買い物支援を行った。	日向市社会福祉協議会が主体となり、地域の移動支援センターが高齢者の移動支援を行うほか、中山間地域の新たな交通手段として、住民マイカー活用のライドシェアの実証運行などを行い、市民・交通事業者等との協働による持続可能な地域公共交通の仕組みづくりを行っていく。	
		②新しい交通の導入に向けた地域コミュニティの体制づくり	検討・実施				東郷エリアなどの中山間地域の移動支援のため、住民マイカー活用のライドシェアの検討を行った。		
	【事業12】公共交通利用のメリットに関する市民への普及活動	①お試し乗車の実施等、公共交通を利用する“きっかけ”的提供	検討・実施				スマホ教室実施時に受講者へぱらっとバスの割引券を配布した。		
		②出前講座や乗り方教室の実施	検討・実施				スマホ教室実施時に市民バスの利用方法の説明を実施した。		